

資料 1 - 1

白坂病院

様式

事業計画書（単独支援給付金）

鹿児島県知事 殿

単独支援給付金の支給を受けたいので、下記のとおり事業計画書を提出します。

また、下記3の「支給申請に関する誓約事項」について誓約します。

1. 申請者の情報		申請年月日	2021 年 6 月 30 日	
フリガナ	シラサカビョウイン	医療機関の 住所・所在地	〒 890 - 0053	
医療機関の名称	白坂病院		鹿児島市中央町13番地14	
フリガナ	リジチョウ シラサカ トモコ	事務担当者	職・氏名	事務長 池田 睦
開設者 <small>(代表者の職・氏名も記載)</small>	理事長 白坂智子		電話番号	099-255-3161
			ファクシミリ	099-252-8733
			電子メール	e2dhac45axu46tebxd5c@mopera.net

2. 支給申請額

支給申請額(千円)	57,000
-----------	--------

3. 支給申請に関する誓約事項

- (1) 本給付金に関する報告や調査について、厚生労働省又は県から求められた場合には、これに応じます。
- (2) 本給付金の給付後、以下の①から③に該当した場合は、本給付金の全額又は一部を返還します。
- ① 単独病床機能再編計画に記載の内容について達成が見込めなくなった場合
 - ② 給付金の支給を受けた日から令和8年3月31日までの間に、同一の構想区域に開設する医療機関において対象3区分の許可病床数を増加させた場合（ただし、特定の疾患に罹患する者が多くなる等の事情により、厚生労働大臣及び都道府県知事が特に認める場合に許可病床数を増加させる場合はこの限りではない。）
 - ③ 申請内容を偽り、その他不正の手段により給付金の支給を受けたと認める場合
- (3) 暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力と関係を有しておりません。

(添付書類)

- ① 病床稼働率算出の根拠となる平成30年度病床機能報告の写し又は令和元年度の病床機能報告の写し等
- ② 地域医療構想を達成するために必要な病床数の削減であることの説明書（別添「単独病床機能再編計画書」）
- ③ 過年度に申請した単独支援給付金支給申請書兼口座振込依頼書の写し（過年度に「令和2年度病床機能再編支援補助金における令和2年度地域医療構想を推進するための病床削減支援給付金」又は「地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業のうち単独支援給付金支給事業」により支給を受けている場合に限る。）

■支給申請額算定シート

1	再編前の稼働病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分(※3)の合計
	① 平成30年度病床機能報告			16		31	32	79
② 令和2年4月1日時点(※1)			0		25	54	79	25
③ 再編前病床数=②(※2)		0	0	0	25	54	79	25

- ※1 各機能ごとの数値については、地域医療構想調整会議にて確認されていること。
令和2年4月1日時点で病床数の変化があった場合は、変更前の病床数を記載すること。
平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。
- ※2 ①平成30年度病床機能報告時又は②令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を基準とする。
- ※3 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

2	再編後の許可病床数 (=再編後の稼働病床数)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
				0		0	0	0

3	他の医療機関との病床融通数 (※4)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
	うち同一開業者の医療機関との病床融通数		(0)		(0)	(0)

- ※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の医療機関から病床の融通を受けた場合はマイナス表記、病床を融通した場合はプラス表記とすること。
また、「(参考) 病床融通に関する概要」シートに関連する医療機関の病床数を記載すること。

4	対象3区分から 回復期又は介護医療院へ 転換した病床数	回復期	介護医療院	合計
		0		0

5	減少病床数 (1の③-2)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
		0	0	0	25	54	79	25

6	過去に 令和2年度病床機能再編支援補助金 及び本事業で支給済の病床数	支給済病床数	5.減少数	4.うち転換数	6.支給済数	3.うち他院への 融通数	支給対象
			25	0	0	(0)	25

7	再編前の許可病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
	① 平成30年度病床機能報告			41		38		79
② 令和2年4月1日時点(※5)			41		38		79	79

- ※5 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。

8	対象3区分の病棟の 年間在棟患者延べ数(人)	高度急性期	急性期	慢性期	合計
	① 平成30年度病床機能報告(※6)		2,629	8,126	10,755
② 令和2年4月1日時点(※7)		0	6,860	6,860	

- ※6 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数 = 年間在棟患者延べ数(48)欄に記載された数値 ÷ 報告可能な対象期間(月単位) × 12

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成30年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位) = 6

- ※7 7の①と7の②の値が同じ場合は8の②の入力は不要。

9	<選択>	対象3区分の病床稼働率	一日平均実働病床数	適用
	A 平成30年度病床機能報告	37.2%	29	
B 令和2年4月1日時点	23.7%	18		

10	再編前の対象3区分の稼働病床数 から一日平均実働病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		1,140	0	0

11	一日平均実働病床数から再編後の 対象3区分の許可病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
		2,280	25	57,000

要件 審査	90%減少チェック	○
----------	-----------	---

12	支給申請額(千円)	57,000
----	-----------	--------

(別添)

単独病床機能再編計画書

作成日：令和3年6月30日

白坂病院

1 本事業にかかる単独病床機能再編医療機関の概要

医療機関名称	白坂病院
開設主体	医療法人南和会
所在地	鹿児島県鹿児島市中央町13番地の14
構想区域	鹿児島医療圏
許可病床数	総許可病床数 79 床 高度急性期 0 床, 急性期 41 床, 回復期 0 床, 慢性期 38 床 休棟 0 床
稼働病床数	総稼働病床数 25 床 高度急性期 0 床, 急性期 0 床, 回復期 0 床, 慢性期 25 床 休棟等 54 床
1日あたり患者数 (稼働率)	入院患者数 29 人/日 (37.2%) 外来患者数 24 人/日 R3 年 4 月
標榜診療科	整形外科, 外科, 内科, リウマチ科, リハビリテーション科, 放射線科,
職員数	11.25 人
(医師)	1.25 人
(看護職員)	3 人
(専門職)	5 人
(事務職員)	2 人

2 構想区域における現状と課題

鹿児島医療圏の総人口は、2015年の約68万人から徐々に減少し2040年には60万人を下回る事が見込まれているが、65歳以上の人口は2040年まで増加し、その増加率は県内で最も高い。しかし、2025年の入院医療需要は、在宅医療等の進展により2013年比で慢性期は7割まで減少が見込まれ病床数の過剰が予想される。病棟を運営するためには医療スタッフの充実が不可欠であるが、求人活動としてハローワークやシルバー人材センター及び民間の職業紹介所で常時継続的に求人活動を行ってきた。常勤職員で夜勤可能な看護師及び看護助手の慢性的な人手不足もなかなか改善されず、病棟運営に少なからず支障をきたしている。このような状況下では、患者に対する医療提供体制も質及び量と共に十分とは言えず、当院としては病床の縮小を余儀なくされてきた。今回、病床機能再編計画事業を知り、鹿児島医療圏の病床数の問題と当院の医療提供体制の問題の解決策に通ずる事であると判断し、申請に至った。

3 病床機能再編計画の概要

(地域医療構想の実現に向け必要な取組であることを示す内容とすること)

計画概要説明文・・・

他の医療圏からの流入患者が鹿児島医療圏は多い。特に高齢化するとともに増加する悪性新生物、循環器疾患、消化器疾患等の患者は医療体制の充実を図る必要があるが、それぞれの専門分野に特化した中核医療機関に集約・連携していく必要がある。一方、慢性期病床に関しても、医療療養病床から介護療養病床等へ転換している医療施設も多くなってきている。当院に関してはその意思は少ないため地域医療構想に則った病床再編を考える。地域の医療提供体制について入院患者の受け入れについては、専門分野に特化した他の医療機関や介護施設等へ紹介し、当院としては外来診療を中心に地域医療に貢献できればと考える。

平成30年度病床機能報告 (平成30年7月1日時点)	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	41床	16床
	回復期	0床	0床
	慢性期	38床	31床
	休棟等	0床	32床
	病床数合計	79床	79床



平成30年7月1日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

令和元年度病床機能報告 (令和元年7月1日時点)	機能	許可病床数	稼働病床数	同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
	高度急性期	0床	0床	床	床
	急性期	41床	0床	0床	0床
	回復期	0床	0床	床	床
	慢性期	38床	25床	0床	0床
	休棟等	0床	54床	床	床
	病床数合計	79床	79床	0床	0床



令和元年7月1日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

令和2年4月1日時点	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	41床	0床
	回復期	0床	0床
	慢性期	38床	25床
	休棟等	0床	54床
病床数合計	79床	79床	

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
0床	0床
床	床
0床	0床
床	床
0床	0床



令和2年4月1日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

病床機能再編完了時点	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	0床	0床
	回復期	0床	0床
	慢性期	0床	0床
	休棟等	0床	0床
病床数合計	0床	0床	

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床

4 具体的計画について

単独病床機能再編後の診療体制

白坂病院の病床機能再編後の診療体制は、外来診療を中心とした無床クリニックに移行する予定である。診療科としては白坂病院時と変わりはなく、整形外科、外科、リハビリテーション科、リウマチ科、内科（循環器内科、消化器内科）、放射線科とする予定である。また、引き続き短時間型通所リハビリテーションも継続する。入院の必要のある患者については、専門分野に特化した他の医療機関を紹介する事で対応し、当院は外来診療に特化した患者の診療を行う事で、地域の医療提供に十分に貢献できると考える。

医療機関名称	白坂病院	
構想区域		鹿児島医療圏
許可病床数		0床
区分ごとの病床数	高度急性期	0床
	急性期	0床
	回復期	0床
	慢性期	0床
標榜診療科	整形外科，外科，内科，リウマチ科，リハビリテーション科，放射線科，	

単独病床機能再編完了予定年月日

説明文・・・予定日としては未定であるが、申請が受理されれば令和3年度中には移行予定。

単独病床機能再編完了予定年月日	令和4年3月31日
-----------------	-----------